

大空に翔る

令和四年度 山形県スポーツ少年団事業

令和四年度日本スポーツ少年団 ジュニア・リーダーズスクール

山形県スポーツ少年団指導育成委員会

委員 石川 武利

八月十日・十一日に金峰少年自然の家で、宿泊なしの二日間の日程で開催されました。二十三人の団員が集い、期待と不安をもちながら参加していました。様々な地区の中高生と一緒に、協力しながら活動しました。最初は緊張で口数も少なかったのですが、交流するうちに気持ちがあぐれ、自然と仲間意識も芽生えたようです。会話も多く、関わりも深まりました。

二つの講義では真剣に受講する姿が見られ、スポーツ少年団の基本的なあり方やリーダーとしての心構えを学び直しているようでした。

交流活動では一日目にグリーンアドベンチャー、二日目にグループアドベンチャーを行いました。班長を中心に積極的に行動し、班員同士で声を掛け合っている姿がありました。私もグリーンアドベンチャーはきつく感じましたが、団員と一緒にがんばって歩きました。途中の展望台ですばらしい庄内平野の景色を見て、疲れが癒されました。団体行動で同じ苦しさや楽しさを共にすることによって仲間意識が芽生え、絆がより深まり、大きな輪となる波



及効果が存分に表れたと思います。グループアドベンチャーでは班対抗のゲームやドミノなどで心も和み、笑顔が見られ、歓声があがっていました。指導者も一緒に参加して、和気あいあいとした活動になりました。

団員の感想の中には「勝ち負けを考えずにスポーツを楽しみたい」という声がありました。これからは勝利だけにこだわらず、団員の主体性を尊重した指導が主流になると思います。団員の思いをしっかりと受け止めなければならぬと実感しました。今回のジュニア・リーダーズスクールでは団員の主体性が様々な場面で見られ、とてもうれしく思いました。

参加者には今回の経験を生かして、将来はスポーツ少年団のよき指導者になってほしいと願っています。そして、山形県のスポーツ少年団の発展に貢献してもらえることを期待しています。

令和四年度山形県スポーツ少年団 指導者・育成母集団研修会

山形県スポーツ少年団庄内地区協議会

監事 佐藤 利浩

十一月十二日(土)、酒田市公益研修センターで指導者・育成母集団研修会が開催されました。研修会に先立ち、日本スポーツ少年団顕彰伝達式・山形県スポーツ少年団表彰式が行われました。受賞された一団団・十名の皆様におかれましては、今後益々のご活躍をご祈念いたします。研修会では日本ベップトック普及協会認定講師の小野弘志氏、公認スポーツ栄養士の西田久美子氏からご講演いただきました。

小野弘志氏からはベップトックの事実を受け入れる需要、ネガティブをポジティブに変換する承認、して欲しいことを肯定的に変換する行動、背中を一つ押しする激励の四つの流れについてお話しいただきました。また、ベップトックは一人ひとりに刺さる言葉が異なるため、団員の心を見極めて声をかける信頼関係も重要だとおっしゃっていました。SBT(スーパードレイントレーニング)については、人間は頭が良すぎて過去の「できない」を覚えており、「サーブミスをするな」という指導には感情脳が反応するそうです。ミスのイメージを思い出すとホルモンが分泌され、パフォーマンスが落ちます。しかし、「コート隅の隅を狙え」という指導をするとコートに入るイメージが浮かび、高いパフォーマンスを発揮できると教えていただきました。

西田久美子氏からはパフォーマンスを最大限に発揮するために、2W2H(何を、いつ、どれだけ、どのように)の摂取についてお話しいただきました。ジュニア期は運動能力や関係器官が発達するため食教育が大切で、エネルギー不足にならない摂取の考え方や体重や運動量から適正量を確認する方法を紹介していただきました。補食や分食というエネルギー摂取方法も活用し、エネルギー不足に陥らないようにすることの大切さも教えていただきました。

お二人からは指導の基本となる要素について詳しくご講演いただきました。今後の指導に生かすことのできる有意義な研修会となりました。



単位団紹介

山形ドリームズスポーツ少年団(山形市)

代表者 鈴木 光弘

山形ドリームズは平成十六年五月に設立、山形市に初めてできた女子ソフトボールチームとして来年二十周年を迎えます。チームの合言葉は「笑顔・夢・喜び」です。表情豊かに、勝って喜び、負けて悔しがるという当たり前のことを素直に表現できる子どもに育ててほしいと考えています。

団員は、山形市を中心に天童市など周辺市町からも入団しており、六年生六名、五年生一名、四年生八名、三年生二名、二年生一名の十八名で活動しています。冬場の基礎練習と春先の実践練習、夏以降の大会参加などで選手の実成長が手に取るようにわかり、指導の醍醐味を味わわせてくれています。体を動かしたい保護者の皆さんには積極的にグラウンドに出てもらいます。が、毎年秋に行われる母娘対決では、珍プレー・好プレーが入り乱れ、笑顔溢れる名物イベントになります。ブログでも紹介していますので検索していただければありがたいと思います。

ソフトボールの楽しさを知り、退団後もスポーツを続けながら、多くの仲間と良い出会いを作ってほしいと願っています。



鮭川ベースボールクラブスポーツ少年団(鮭川村)

代表者 堀米 毅

私たち鮭川ベースボールクラブは、現在鮭川小学校二年生から六年生まで計十六人で活動しています。



練習は、週三回行っています。火曜日と木曜日は午後六時三十分から八時まで、土曜日は午前九時から十二時までの時間帯で、三年生以下はティーボール、四年生以上は軟式野球がメインです。練習メニューは基礎練習から試合等実践に則したものがあり、大会前は練習試合を組むなどの工夫をしています。

また、当クラブが主催する「田中杯少年野球大会」は、昨年で四十二回を数え、各種カップ戦の中でも歴史のある大会で、村や学校、総合型地域スポーツクラブ等、各方面から協力をいただきながら、母集団主体で運営を行っています。

ここ数年の活動は、新型コロナウイルス感染症防止によりなにかと制限されることも多く、思うようにできないことも多々ありました。今年度は、徐々にコロナ前の状況に戻り、日々の練習や各種大会に参加することができるようになりました。子ども達は、思う存分、ティーボールや野球を楽しむことができたようです。今後も一人でも多くの子どもに野球の楽しさを伝えられるよう活動していきたいと思えます。

南陽柔道スポーツ少年団(南陽市)

代表者 菅 徳子

令和四年度より宮内・赤湯・沖郷の三つの柔道スポーツ少年団が統合し「南陽柔道スポーツ少年団」として新たにスタート致しました。

南陽市柔道連盟の粟野会長、南陽柔道スポーツ少年団の新・佐藤団長はじめ、多くの指導者・保護者の方々にご尽力頂き、新団体を創設できた事を大変嬉しく思っています。

柔道を通じて、体力の向上や競技技術の習得だけでなく、礼儀作法を学び、心と体が強くなれるよう指導しています。また、市内の子ども達が交流する中で、絆を深め合える、団を目指しています。

さてコロナ禍により、特に対人競技でもある柔道は、多くの制限の中で活動を行ってきました。しかしその中で、いかに子ども達に柔道の魅力を伝えていけるかと、勝負だけでなく柔道の楽しさを活動に盛り込んできました。

現在は、一年生から六年生までの男女十三名が活動している他、就学前のお子さんを対象とした柔道教室も行う事で幅広い年齢の方々に柔道を楽しんで頂いています。

これからも、柔道での「人間教育」を通じて、子ども達の思いを大切にしながら共に成長していきたいと思えます。



遊佐サッカースポーツ少年団(遊佐町)

代表者 岡 幸一

遊佐サッカースポーツ少年団は、遊佐町の五つの小学校から団員を募集して活動しています。近年の少子化の影響もあり、団員数が大幅に減少して単独での活動が出来なくなり、ここ数年は酒田市の泉サッカースポーツ少年団と合同で活動しています。



地域のみなさんのおかげでサッカースポーツ少年団は長い間団員数に困らない活動が出来ました。団員数の減少は活動内容を考える良い機会となりました。活動内容の原点、「一人でも多くの子供達に楽しんで運動やスポーツを行ってもらおう環境作り」を遊佐町総合型スポーツ文化クラブ「遊's(ゆず)」と協力して環境作りに取り組みました。遊'sと協力して作った「サッカー教室」は、週一回、誰でも自由に参加できる子ども達の運動の場所となり、少しずつ参加人数も増えていきました。サッカー教室の参加人数が増えたとスポーツ少年団の団員数も少しずつ増えていき、ついに今年度から単独で活動ができる人数となりました。今後はサッカー教室からスポーツ少年団へと繋いだ子どもたちを次の環境に良い形で繋げられるように、指導者、保護者、地域の皆さんと一緒に協力して環境作りに取り組んで行きたいと思えます。

団員の夢

「ミニバスケットボールを通して」



月岡ミニバスケットボール
スポーツ少年団(上市市)
安孫子 咲愛

私がミニバスケットボールを始めたのは、小学三年生の時です。学校で休み時間に友達とバスケットをして楽しかったことがきっかけで、スポーツ少年団に入団しました。

五年生の時、六年生が一人もいなかったこともあり、私がキャプテンになりました。「チームを引っ張っていかなければならぬ」という強い思いで、公式戦一勝を目標にこれまで以上に練習をがんばりました。しかし、一勝もできなくて、本当に悔しかったです。

そして、自分が六年生になり、まずは公式戦一勝を目指し、より一層練習に励みました。ようやく六月の大会で初勝利を飾ることができました。その後の試合でも勝ち進み、県大会の出場権を得ました。県大会ではなんとブロンズ優勝することができました。それは、負けてばかりだった時も、みんな諦めずに練習をがんばったことと多くの方々の支えがあったから成し遂げられたことだと思っています。

私は、スポーツ少年団で学んだ「努力することの大切さ」と「仲間との絆」、そして「お世話になった方々への感謝の気持ち」の三つを忘れずに、中学校でも大好きなバスケットを続け、もっともっと自分を高めていきたいと思えます。

「あと一步をこえる」



大蔵
スポーツ少年団(大蔵村)
伊藤 学玖

ほくは、草野球をしている父の姿を見て楽しそうだなと思い、小学校一年生から野球を始めました。

大蔵一球には二十八人の仲間がいて、あいさつやチームワークを大切にしながら活動をがんばっています。

ほくは四年生からチームのエースを任されるようになりました。マウンドに立つととても緊張するけれど、自分のやってきたことやチームの仲間を信じて、思い切りミットに向かって投げることだけを考えています。

ほくが四年生の時、ティーパーの県大会に出場して三位になりましたが、全国大会まであと一步届きませんでした。五年生となった今年は、地区の新人戦や学童大会で準優勝と、やはりあと一步のところまで負けてしまいました。来年こそはその一步をこえられようように、チーム全員でがんばっていきたくです。

ほくにはメジャーリーグで活躍したいという夢があります。メジャーリーガーは、体力も技術も超一流の選手ばかりです。ほくもどんな練習にも手を抜かず全力で取り組み、必ずこの夢を叶えようと思えます。

「大好きな陸上」



白鷹ジュニアアスリート
スポーツ少年団(白鷹町)
高橋 蒼翔

僕が陸上を始めたのは、小学四年生の時でした。学校の運動会でなかなか一位が取れずにくやしい思いをし、「百メートル走やハードル走で速くなり、一位を取りたい」と思い、白鷹ジュニアに入団しました。

今年の六月には西置賜地区陸上選手権大会に参加しました。大会では五百メートル走に出場し、十五秒九で六位に入賞しましたが、個人では県大会に行くことができませんでした。県大会に行ける二位までは、あと〇・八秒足りず、すごくよかったです。男子リレーにも選手として出場しましたが、リレーでは一位になり、県大会に行けたのでうれしかったです。

最近ハードルに興味をわき、繰り返し練習をした結果、少しずつ自信が持てるようになってきました。六年生ではハードルや高跳びなど色々な種目にちよう戦し、大会で良い成績を出せるよう練習していきたくと思います。

スポ少で陸上を始めて、色々な大会に出ましたが、自分とは比べられないくらい速い選手がたくさんいたので、六年生の時はもっと練習をたくさんし、今年負けた選手をこえられるように強くなり、中学校にもつなげたいと思います。まずは六年生の時に、個人でも県大会に出場することが僕の一番の目標です。

「姉と共に」



三川バレーボール
スポーツ少年団(三川町)
成澤 芽生

私にバレーボールのきっかけを与えてくれたのは、二歳上の姉と八歳上の従姉でした。私は、一生懸命バレーボールをしている姉に憧れて、二年生から始めました。

私が入団した時は、団員が八人程しかいなく、私はみんなと同じ練習をしました。最初はボールが恐くて、難しいなと思いました。それでもうまくレシーブできた時、姉や仲間がほめてくれてうれしかったのを覚えています。その年の新人戦では、セッターを任せられました。私がトスしたボールを姉がスパイクする練習を繰り返しました。

私は今、バレーボールができて幸せです。姉が退団してから団員不足で大会に出られないこともありましたが、頑張る練習しても、試合をすることができなかったもので、楽しくありませんでした。今は団員も増えて活気が出てきました。秋に出場した久しぶりの大会は緊張しましたが、私は主将としてみんなを引っ張ることを考えました。がむしゃらにプレーした結果、混合の部で優勝することができ、みんなで大喜びしました。

私は三川中でもバレーボールを続けます。また姉と一緒にプレーできるからです。姉と一緒に地区大会で勝って、県大会にいきたくです。そして、一生懸命に私を支えてくれた家族に感謝したいです。

●日独スポーツ少年団指導者交流
「日独スポーツ少年団
指導者交流に参加して」

金山スポーツ少年団(金山町)

栗田伸一

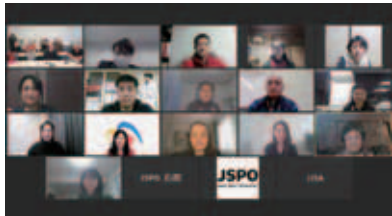
「目標達成のためには行動を起こさなくてはならない。変化は私達から作るもの。」という事例発表後の意見交換の場で耳にした発言が強く印象に残りました。

今回のテーマは「スポーツとSDGs」でした。そのテーマに対し「競争という概念が付きもののスポーツ界からどのような提案ができるのか」などと悩む私をよそに、七十一歳にもなるカール氏から冒頭の発言があったのです。私は、覚悟の違いを知らされました。

ドイツ側の事例発表者は、SDGsに対する取り組みの中で「フライデー・フォー・フューチャー」活動についての話題にも至りました。これは、若者が中心となって活動している気候変動問題に向き合う為の行動です。この話題は、ドイツの若者にとっては当然身に付けておくべき教養のようでした。

また、近年の国際スポーツ大会の開催地の誘致等、懸念を抱いているという話題にもなり、スポーツの政治利用についての状況を考える時間となりました。

国際情勢を対岸の火事と聞き流すことなく、自分たちならどんな行動を起こせるのか、常に想像し動いていきたいと強く感じました。



市町村の動き

酒田市スポーツ少年団本部事務局

酒田市スポーツ少年団本部(以下「市本部」)は、令和四年度現在、単位団八十一団、一二九三名の団員と三三五名の指導者、一四七名の役員スタッフが登録し活動しています。



市本部では、指導者の資質向上を目的に、優良指導者に対する表彰や外部講師を招いた研修会を毎年開催しています。研修会では、指導者のニーズに合わせたテーマを設定して、令和二年度に「やる気を引き出すペップトーク」、令和三年度に「ジュニアアスリートの基本の食事」と題した講演会を開催しています。また、専門部(サッカー、野球、バレーボール、バスケットボール、剣道、卓球)による種目別の指導者講習会の開催に対する支援も行っています。現在、全国的に中学校運動部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について話し合いが進められており、スポーツ少年団もその受け皿のひとつとして挙げられています。市本部としても、子ども達がスポーツに継続して親しむ機会を提供できるように、可能な限り協力していきたいと考えています。また、子ども達にとってスポーツ少年団がより良い活動の場となるよう、今後も市本部として団員相互の交流事業や指導者の研修事業を充実させるなど、地域・学校・スポーツ関係団体と一体となって取り組んでいきたいと思えます。

県の動き

表彰

- 日本スポーツ少年団顕彰
- 〈市区町村表彰〉
- 鮭川村スポーツ少年団
- 〈表彰指導者〉
- 卯月吉彦(寒河江市)、柏倉政男(新庄市)、中村和彦(南陽市)、平賀振一郎(鶴岡市)
- 〈退任者感謝状〉
- 早川勤也(寒河江市)
- 山形県スポーツ少年団表彰受賞者
- 〈功労者〉
- 中村健一(戸沢村)、玉虫由紀子(米沢市)、藤田明美、島貫孝志(小国町)、渡部恵美、今野隆(鶴岡市)、長南護(庄内町)

各種事業

- スタートコーチ(スポーツ少年団)
- 養成講習会 六コース開催
- 〈受講修了者〉 二四一名
- ジュニア・リーダースクール
- 八月十日、八月十一日 山形県金峰少年自然の家
- 〈受講修了者〉 二十一名、指導者等二十四名
- 山形県指導者・育成母集団研修会
- 十一月十二日 酒田市公益研修センター
- 〈参加者〉 八十六名
- アクティブチャイルドプログラム普及促進研修会 四会場開催
- 〈参加者〉 一四七名

○シニア・リーダースクール

- 〔事前研修〕 七月十日(日)、(全体研修)
- 八月九日～八月十二日 オンライン
- 〈参加者〉 佐久間優衣(尾花沢市)、池田直(鶴岡市)
- 日独スポーツ少年団指導者交流
- 十一月二十日 オンライン
- 〈参加者〉 栗田伸一(金山町)
- 全国スポーツ少年団競技別交流大会
- 【剣道】(第四十五回)
- 三月二十五日～三月二十七日 新潟県
- 〈参加団〉 羽黒剣道(鶴岡市)
- 【バレーボール】(第二十回)
- 三月二十四日～三月二十七日 静岡県
- 〈参加団〉 おぐにバレーボール(小国町)
- 東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会
- 【軟式野球】
- 七月二日 宮城県
- 〈参加団〉 長井エルザ野球(長井市)
- 【サッカー】
- 七月十六日～十七日 青森県
- 〈参加団〉 S・F・C ジェラール(山形市)、モンテディオ山形ジュニア村山(天童市)
- 【ミニバスケットボール】 秋田県
- 〔女子〕 二月二十五日～二月二十六日
- 〈参加団〉 月岡ミニバスケットボール(上市市)、明倫バスケットボール(新庄市)
- 〔男子〕 三月五日～三月六日
- 〈参加団〉 山辺ミニバスケットボール(山辺町)、余目男子ミニバスケットボール(庄内町)